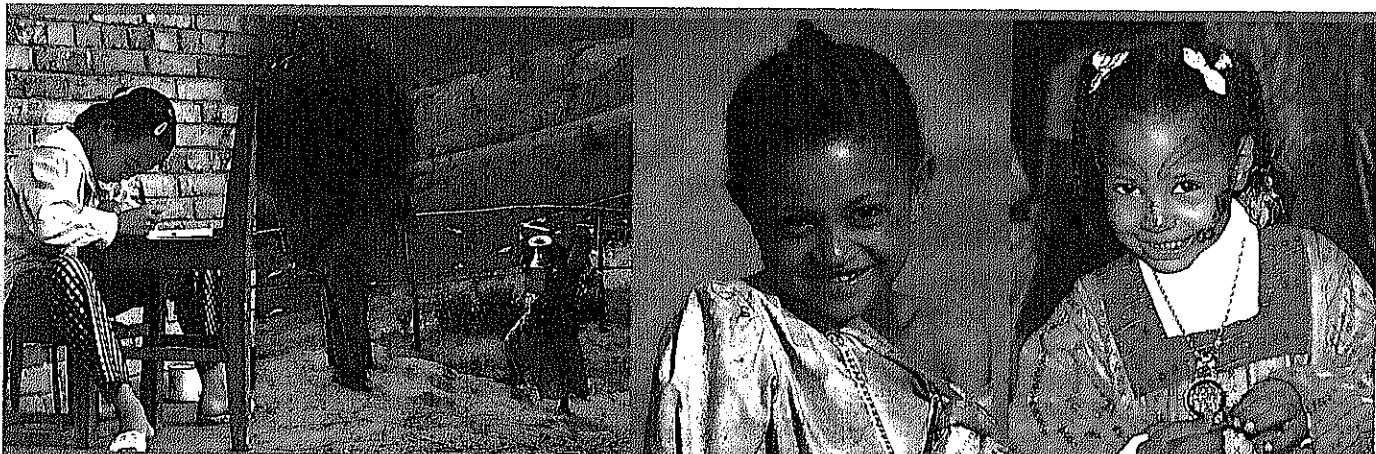


総合的な学習の時間・選択教科に役立つ

国際理解教育の手引き

■平成13年度高校教師海外研修に参加して■



地球といっしょに 未来へ旅立とう

JICA LIBRARY



1195816 [2]

A
RY

JICA
国際協力事業団

国内国
J R

はじめに

国際協力事業団（JICA）は、政府開発援助（ODA）のうち「人づくり、国づくり、心のふれあい」を合い言葉に、研修員の受け入れ、専門家・青年海外協力隊の派遣などの「人を通じた国際協力」を中心に実施する特殊法人です。

日本は今では世界有数のODA供与国となりましたが第2次世界大戦後しばらくの間は、被援助国として諸外国の支援により復興を果たし、その後高度経済発展を遂げるに至りました。今の日本の繁栄も開発途上国をはじめとする他国との相互依存の上に成り立っています。現在、世界最大の援助国となった日本には、開発途上国のニーズに応え、世界の平和と発展に積極的に貢献していくことが求められており、人を通じた国づくりを支援しているJICAの責務はますます高まっています。

JICAは現在、国民の皆様にも私どもの活動に「理解、支持、参加」をいただくため、国民参加型の国際協力事業の推進とその一環としての開発教育支援に取り組んでいます。全国の高等学校において開発教育や国際理解教育に取り組んでいらっしゃる先生方や開発途上国の抱える問題に関心を持っている先生方を対象に開発途上国における経済、社会、教育の実情やJICAの実施する国際協力の現場視察を目的とした研修旅行を実施しています。今回の研修では、ベトナム13名、ヨルダン13名、マラウイ9名、合計35名の先生方に7月から8月にかけて約2週間の研修に参加していただき、開発途上国および国際協力に対する見聞を広めていただきました。

この度、研修に参加された先生方のご協力により、研修で得た経験にもとづいて行った授業実践例を冊子としてとりまとめました。この冊子が開発教育や国際理解教育に関心のある方の参考となり、今後導入される総合学習の一助になれば幸いです。

平成14年3月（9月）

国際協力事業団

国内事業部長 今津 武
(湊 芳郎)

はじめに

研修を生かした授業実践例

■米の加工品 ー日本とベトナムの比較からー	鈴木 洋二	4
■ベトナムを通して「南北問題」を考える	田尻 信一	8
■コミック本「ドラえもん」を介しての国際協力	小市 聡	18
■異文化を知る音楽世界の旅 ー音からの発見ー	今井 章子	22
■青年海外協力隊員とEメールで交流	中井 啓之	29
■偏見を越えたイスラム文化理解を目指して ーヨルダンの人々の暮らしを通してー	松井 克行	34
■世界の貧困問題を考える ーマラウイを事例としてー	永田 成文	50
■グローバルな問題の解決に向け、 民主的で知的な対話のできる資質の育成 ー援助計画案の作成・新しいディベートを用いた比較検討の活用ー	鹿野 敬文	56

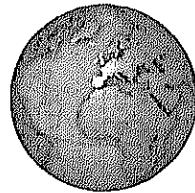
参考資料

■募集概要	68
■事前研修	68
■東京研修日程	69
コース別日程／参加者氏名（ベトナム）	70
コース別日程／参加者氏名（ヨルダン）	72
コース別日程／参加者氏名（マラウイ）	74
■訪問国概要	76
■開発教育関係団体及び教材紹介	79
■JICAはこんなこともしています	85
■地域国際化協会一覧	86
■問い合わせ先	88



1195816 [2]

研修を生かした 授業実践例



●VietNam



●Jordan



●Malawi



米の加工品 ～日本とベトナムの比較から～

YOUJI SUZUKI
鈴木洋二

農業
福島県立東白川農商高等学校

カリキュラム案

■実践の目的

穀類・大豆・いも類の加工について学んでいる。すでに小麦粉を原料とする、パン、菓子類、めん、大豆について学習した。この教科では主に日本で生産されている加工品について学ぶ。米は日本で自給可能な原料であり、家庭では米菓以外は精白米として消費されるのが主である。もちろん米粉を原料としてビーフンなどはあるが、あまり一般的ではない。一方、ベトナムに目を向けると、朝食は米から作られる麺を材料にしたフォーがあり、また、日本ではあまり見られないライスペーパーがある。うるち米ともち米が利用方法が異なるのと同じようにそれはデンプンの成分が異なるからなのではないかと考えた。ベトナムの米はインディカ米が主であり、その米の利用方法は日本とは異なる。日本とベトナムの米の性質と加工品を比較することにより、日本とベトナムの料理や食文化や食習慣について考え、また、それらが人々の生活とどのように結びついているのかを学習する。

授業の詳細

うるち米ともち米を特徴づけるのは米を構成しているでんぷんの種類が異なるため、うるち米はアミロースが20～30%、アミロペクチンが20～30%、もち米はアミロペクチンが100%であると言われている。教科書ではうるち米ともち米のみを材料としているが、インディカ米は取り扱っていない。世界の米生

産を見てみるとアジア地域はインディカ種が主で、ジャパニカ種もあり、ジャポニカ種は日本と東アジアの一部で分布している。インディカ米はアミロースの割合が高く、炊飯するとどちらかというとパサパサしており、日本人好みのアミロペクチンの割合が高い米ではない。平成6年から7年にかけて緊急輸入されたタイ米が不評であったが、米の利用方法が異なるため、多くの日本人は従来の炊飯方法だけで食していたと思う。米の加工は米菓や酒造ぐらいで、砕米、クズ米、下級米の処理に米の加工が行われていた。しかし、調理でも調理加工飯として工場につくられるようになれば米加工食品として開発が可能であると思う。「インディカ米はまずい米」という固定観念が払拭し、米と米加工の多様性を理解するため、この授業を試みた。

別紙のような授業案を計画し、本時は1時間で実施したが、内容的に2時間程度が適当であると思われた。授業を2時間計画し、1時間を「米の食味、性質」についてその後に「インディカ米を中心としたアジアの米生産とその加工」について授業を行うなど、量的にもやや無理があったことを反省する。生徒たちの世代では緊急輸入当時のタイ米を食べたという記憶がなく、インディカ米の存在を知ったのも初めてという生徒も何人かいた。もち米とうるち米を特徴づけているのがデンプンの種類であるということを理解させるために、ヨウ素溶液により、米とその加工品が共通の反応を示すことをまずつかむことを意図した。つまり、アミロース割合の高いうち米は青紫色に、アミロペクチン100%のもち米は赤紫色に染まる。そこで、インディカ米は日本の米よりもアミロースの割合がさらに

第2時限 平成13年12月18日(火) 微生物実験室(食品加工科棟3階)

単元名	第1 米の加工品 米の種類とその加工～インディカ米の加工法～			
単元設定の理由	米は主食であるばかりでなく、精白することにより酒や米菓に加工されるなど、重要な原材料である。米は日本国内では大きく分けるとうるち米ともち米に分けられ、米の性質により加工方法や利用方法が異なる。海外に目をむけると東南アジアの国々はインディカ米(長粒種)が主流である。インディカ米の加工方法を通して米加工の多様性や日本での米加工の可能性について考えさせるため、この単元を設定した。			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> うるち米ともち米について、でんぷんの種類により味や性質が異なることを理解させる。また、そのことを通してインディカ米の性質を理解できる。 もち米とうるち米やそれらの米粉をヨウ素反応により見分けることができる。 米の成分や特性によって米加工の用途が異なることを理解させる。 米の加工方法は生産環境や食文化と深く結びつき、地域により異なることを理解させる。 			
準備物	<ul style="list-style-type: none"> 教科書「食品製造」(実教出版) うるち米、もち米、インディカ米、新粉、白玉粉、せんべい、もち、あられ、ライスペーパー、ピーフン、ヨウ素溶液 OHP、スクリーン、OHPシート 			
指導計画	<p>第6節 その他の加工品(全7時間)</p> <p>第1 米の加工品</p> <p>1 精白米 …1時間</p> <p>2 米菓 …1時間</p> <p>3 米の種類とその加工 ～インディカ米の加工法～ …1時間(本時)</p> <p>第2 でんぷんの製造 …2時間</p> <p>第3 ぶどう糖の製造 …2時間</p>			
目標	<ul style="list-style-type: none"> 米の種類(うるち米・もち米・インディカ米)によってでんぷんの性質が異なることが理解できる。 米の加工法が地域や環境と深く結びついていることを理解できる。 			
過程	学習内容・活動	時間	指導上の留意点	備考
導入	本時の学習内容を確認する。	10分	前時に学習した米加工について説明する。 米の加工品にはどのようなものがあるか各自記入させる。	プリント (後記資料)
展開	1.うるち米ともち米、また、それらの加工品を識別する。 2.米の種類と加工品名を確認する。 3.形態以外の識別方法を考える。 4.米と加工品についてヨウ素反応を試み、それらの名称を確認する。 5.インディカ米およびその加工品についてヨウ素反応を試みる。	20分	<ul style="list-style-type: none"> 最初に形態から米や加工品を識別させる。 日本国内の代表的なものとして米菓ともちを使用させる。 「食品化学」や「総合実習」と関連づける。 アミロースとアミロペクチンの割合による呈色反応であることを説明する。 インディカ米の呈色反応を類推させた後、実験させる。 	グループで相談し、各自プリント記入。 OHPの使用
	6.インディカ米の性質と加工方法を考える。 7.インディカ米の生産とライスペーパーの製造について確認する。 8.インディカ米の生産について考える。 9.米の加工技術と米製品を分類する。	15分	<ul style="list-style-type: none"> ライスペーパーの4～5工程ぐらいの製造工程を考えさせる。 ライスペーパーを実際に使用させ、調理例を提示する。 米の種類と食文化について考えさせる。 米加工食品の多様性を理解させる。 	OHPの使用
終結	本時の内容を振り返り、次時の予定を知る。	5分	本時の内容の確認と次時の予告をする。	感想・反省を課題とする。



高いので、青紫色がさらに濃く呈色するのではないかという想定で行った。日本の米と比較してやや青紫色が濃く反応したが、実施班により滴下したヨウ素溶液の量により、その差はあまり明確ではなかった。あわせて、炊飯した米を準備し、実際に食べたり、観察することによりジャポニカ種とインディカ種の特徴はつかめたようである。

その後ベトナム料理である生春巻きの材料、ライスペーパーを取り上げた。初めは単に硬く薄い皮が、半透明の生春巻きの材料であるライスペーパーのことは知らない生徒が多かった。ライスペーパーを実際に水で戻して提示した。日本国内ではあまり加工されない形であるので、生徒たちの関心は高かった。その後、インターネットで調べたライスペーパーの加工方法を提示した。米粉を水で溶き、軽く熱して形を整え、天日干しをするという工程は熱帯地方という気候と関連づけて学習した。

食味に関する差は食習慣とも関連はあるが、チャーハンやインドネシアのナシゴレンなどではインディカ米のご飯は油とよくなじみ、具がまざりやすく、パラッと仕上がるので適している。そのことについては経験的に理解する生徒もいた。あわせてビーフンもヨウ素溶液反応を行い、インディカ米とその加工品であることを確認した。

残りの時間でアジアにおける米の生産およびインディカ米の生産について解説した。今回の研修で撮影したベトナムの水田とベトナム料理のいくつかをOHPで生徒に紹介した。

米の加工品を通してその多様性については生徒はおおよそ理解できたと思うが、さらに一歩踏み込んで、ベトナムにおいて今もお乳幼児死亡の最大の原因となっている栄養不良について考えることも必要であった。今後の展開としては栄養が不足する地域で乳幼児に対してどのような形で食事を与えているかについて調査し、授業を展開することも可能であると思う。また、ライスペーパーやビーフンを材料としたが、ヨウ素溶液での実験は、それらは食べ物であり食料である、という点が見えにくくなるため、単なる「もの」として扱うのではなく、食材であるということを意識させ、生徒に無駄にさせないような工夫も必要であると感じた。

今回の授業準備にあたり、パソコンがいわゆる「ウイルス」の被害を受け、OHPを使用するなど十分な準備ができないままの授業となってしまった。わが身にそれがおこりうるとは予想していなかったため、情報管理の重要性とまさにわが身をもって情報のグローバル化?を実感した形となり、今回の授業実践とは直接関わりはないが、様々な面で私自身勉強になった。

米の種類とその加工 ～インディカ米の加工～

H13.12.18

2年()組 NO()氏名()

1 米の加工品

() () ()
() () ()
() () ()

2 ヨウ素でんぷん反応

記号	反応結果	食品名	気がついたことなど
A			
B			
C			
D			
E			
F			
G			

2 A～Bまでの結果からどのようなことがわかるか書きなさい。

.....
.....
.....

3 インディカ米とその加工品のヨウ素でんぷん反応

記号	反応結果	食品名	気がついたことなど
H			
I			
J			

4 H～Jの結果からどんなことがわかりますか？

.....
.....
.....





ベトナムを通して 「南北問題」を考える

SHIN'ICHI TAJIRI

田尻 信一

地歴

国立筑波大学附属高等学校

カリキュラム案

■実践の目的

本実践では、高校1年の地理歴史科「世界史B」のテーマ学習としてベトナムを取り扱うことにする。高校では、2003年から実施される新教育課程から「総合的

学習の時間」(以下「総合的学習」と略記する。)が実施される。新学習指導要領では、「総合的学習」の内容として「国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動」(文部省『高等学校学習指導要領』、大蔵省印刷局、1999年、8頁)をあげており、国際理解は高校教育全般の重要テーマ

授業の構成案

時限とテーマ	授業内容と方法	教材・資料
1～2時限 ベトナムを知ろう	1) ベトナムの紹介 ・ハノイで撮影してきた写真(市場、食堂、学校、交通などの様子)を生徒に見せる(スライドショー)。 2) 「ベトナム」について知ろう ・ベトナムの歴史・文化・生活についての質問紙を配布し、調べ学習を行う。 ・調べた内容を提出させ、発表させる。	・写真(現地で撮影) ・地図 ・質問紙(別紙参照) ・ベトナムに関する本等
3時限 ベトナムの3つの顔	以下の3つのテーマについて、講義形式で行う。 1) 多様な民族からなる国家 ・民族博物館を訪ねて 2) 中国文化との関わり ・文廟・歴史博物館から見る中越関係 3) 植民地からの独立 ・ホアロー収容所・ホーチミン廟等	・写真(現地で撮影) ・パンフレット(現地で購入) ・「物語ベトナムの歴史」(中公新書)等
4時限 ベトナムと日本	1) ベトナムで活躍する日本人 ・青年海外協力隊員の江川うららさんの活動を報告。 2) 「リプロダクトヘルス」って何? ・ODAによって運営されるプロジェクトの例として、ゲアン省の事例を紹介。 3) 国際協力現場から学んだこと ・今回の授業感想や自分の意見をまとめさせ、次回授業のときに提出させる。	・ベトナムで活動する青年海外協力隊員やNGOへの取材。 ・現地配布のパンフレット ・「ベトナム女性に関する統計」等

の一つとして位置づけられている。

本実践の目的は、国際理解の観点からベトナムを取り上げて、異文化理解や我が国の国際協力について学習させることである。授業では、現地での取材成果や写真・絵はがき等のヴィジュアル教材の活用によって生徒の興味・関心を喚起するとともに、調べ学習・課題レポートの作成などの探求的活動を通じて生徒の主体的学習への意欲を高めるようにする。また、今回の授業を2003年から担当しなければならない「総合的学習」の「実験」として位置づけて実践を行うことにする。

授業の展開

【第1・2時間】ベトナムを知ろう

(1) 本時の目的

- ・ベトナムに対する生徒の興味・関心を高める。
- ・調べ学習を通じて、ベトナムに対する知識を深める。

(2) 本時の展開

- 1) スライドショー：本単元の導入として、ベトナムで撮影した写真をスライド上映し、生徒のベトナム

【スライドショー】



①大雨に見舞われた翌朝の出勤風景

ハノイは紅河デルタにつくられた都市で、漢字で表すと「河内」となる。私たちが訪問したとき（8月3日）は十年ぶりの大雨で街全体がこのように水没した。



②市内にあふれるバイク

バイクが市民の重要な足となっている。一台に4人が乗車したような曲芸もどきの運転風景を見られる。ホンダ製バイクは絶大な人気を得ていたが、高価なために中国製コピーバイクが目立った。



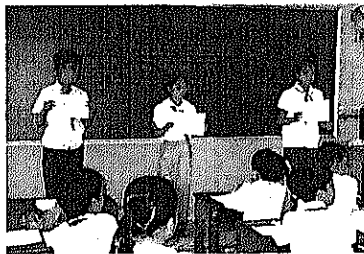
③市内のフォー食堂

フォーは、最もポピュラーな料理である。牛肉入りのフォーが一杯1万ドン（約80円）で食べられた。



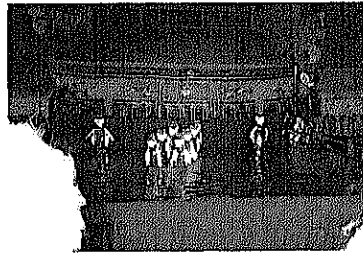
④市場（ホム市場）

野菜、果物、魚、肉であふれる食品市場。この店では、羽をむしった鶏が丸ごと売られていたのには驚いた。



⑤授業風景（Ngyen Bien Khiem 中・高校）

中学一年生の数学の授業風景。この学校は、生徒を入れ替えての午前・午後の2部制で授業を行っていた。生徒たちが大変熱心に授業を受けていたのが印象的であった。



⑥水上人形劇（ホアンキエム湖わきの国立劇場）

千年の伝統を誇る水上人形劇。農村を舞台にした伝説や民話が演じられている。



への興味・関心を高める。上映したスライドはJICA
高校教師海外研修で同国を訪問したときに撮影したも
のである。

2) ベトナムについて知ろう：各班にテーマを割り
当て（資料1）、調べ学習をさせる。

- ・調べ学習の内容は、地理的内容（気候・人口・面積）、
文化的内容（民族構成や料理）、歴史的内容（「越
南」・ホーチミン）、現代の状況（「ドイモイ」）など
から選んだ。各テーマは個別のものであるが、それ
らをまとめるとベトナムの地理、歴史、文化などの
全体像が捉えられるように構成した。
- ・班ごとに調べた内容をまとめ、提出する。また、班
の代表がその内容をクラス全体に発表する（一班5
分程度）。

【資料1】調べ学習の内容

- ・ベトナムはどういう気候か？（一班）
- ・ベトナムの人口や面積はどのくらいか？（二班）
- ・ベトナムはどんな民族から構成されているのか？
信仰はどうか？（三班）
- ・フォーは何からつくられているのか？ほかにどんな
料理が有名か？（四班）
- ・ベトナムは漢字で表すと「越南」となる。どうし
て？（五班）
- ・ホーチミンはどんな人か？（六班）
- ・「ドイモイ」とはどんな政策か？（七班）

3) 各班の発表：以下は、発表内容を簡条書きにし
たものである。

- 一班 熱帯モンスーン。北部は亜熱帯で四季がある。
洪水が多いなど。
- 二班 33万km²。S字型の国（逆立ちの龍の姿という
たとえもある）。人口7,800万人。
- 三班 54民族から構成。約9割がキン族。仏教徒が多
い。キリスト教、カオダイ。
- 四班 ビーフン（米粉）製。ヌックナム（魚醤）やゴイ
クオン（生春巻）などが有名。
- 五班 越（中国南部）の南という意味。中国文化を取り
入れてきた歴史がある（小中華）。
- 六班 フランスからの解放やベトナム戦争を戦った。
バックホー（ホーおじさん）。

七班 ベトナム政府が進める経済の開放政策。「ドイ
モイ」とは刷新を意味する。

【実時間】ベトナムの3つの顔

(1) 本時の目標

- ・本時では、民族博物館、歴史博物館・ホアロー収容
所・ホーチミン廟・文廟などで収集した資料や写真
を使ってベトナムの社会・歴史・文化の特徴につい
て生徒に概観させ、ベトナムに関する総合的理解を
深めさせる。
- ・ベトナムに関する課題の考察を通じて生徒を授業に
主体的に参加させ、ベトナムの社会・歴史・文化に
対する興味・関心を高める。

(2) 本時の展開

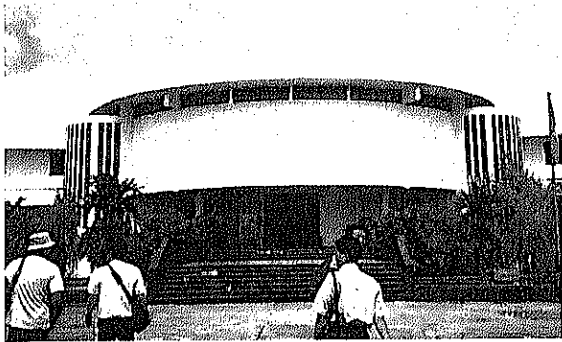
- ・「多様な民族からなる国家」「中国文化との関わり」
「植民地からの独立」の3つのテーマを柱にして講
義形式の授業を行う。
- ・上記の3テーマに関する問題や質問を生徒に課し、
主体的に考えさせる。

1) 多様な民族からなる国家

ベトナム民族博物館を訪ねて

～豊かな文化を育んだ多民族国家としての顔～

- ・ベトナムは、九州を除く日本列島と同じ広さ（33万
km²）に54の民族が生活する多民族国家である。
- ・いわゆるベトナム人と呼ばれるキン族が人口の87%
を占め、北部の紅河デルタと南部のメコンデルタな
どからなる農耕地帯に住んでいる。
- ・他の53の民族はクメール族・チャム族（南部）を除
き、ほとんどが国境地帯の山岳部に住む。かれらは
自然と共生して生活し、生産用具や衣装など豊かな
文化を育んだ。近年、開発が山岳部にも及び、自然
との共生が次第に困難になっている。ハノイにある
民族博物館には、1500点に及ぶ少数民族の資料が展
示されている。
- ・モン族の場合は、中国南部からベトナム北部の山岳地
帯に558,053人が生活している。焼き畑農耕を基本と
し、新しい土地を求めて常に移動生活を行っている。

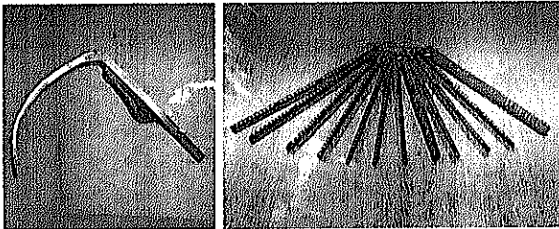


民族博物館



モン族の少女たち

問題 次の2つの写真は民族博物館で撮影してきた少数民族が使っていた日用道具である。どんなことに用いた道具か、考えてみよう。



答え (左) ハイと呼ばれる鎌
(右) 竹棒でつくったカレンダー

2) 中国文化との関わり

文廟・歴史博物館から見る中越関係
～東南アジアの小中華・ベトナム～

・ベトナムは古い歴史をもった国である。1924年に

タインホア省ドンソン村で大量の青銅器が発見された。その後の研究で、これは前2千年から前1千年にかけて栄えた銅鼓を特徴とした青銅器文化であり、ドンソン文化と名付けられた。今日、ドンソン文化は東南アジア諸文化の起源であると考えられる学者もいる。写真の銅鼓上部の文様は太陽を象徴したものである。



歴史博物館に展示してあった銅鼓

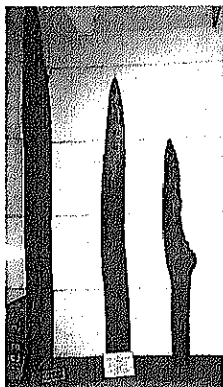
- ・ベトナムは中国王朝をモデルとした国家体制を取り入れた。その例として、科挙制の導入があげられる。ハノイにある文廟という建物は1070年に建てられた孔子廟で、現在ここにはたくさんの石碑が保存されている。これらには15世紀から17世紀までの間の科挙合格者82名の名前が刻まれている。ベトナムは中国の制度を国家統治の基本として採用したため、東南アジアの「小中華」といわれている。
- ・漢の成立以来、ベトナムは中国から文化的影響のほか、常に政治的、軍事的圧迫を受け続けてきた。中



龜像台座に立つ科挙合格者の石碑(文廟)

問題

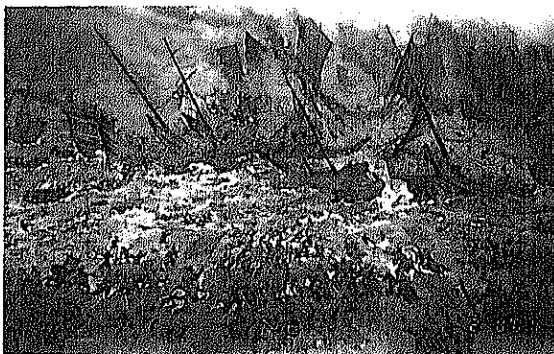
歴史博物館に展示されている杭(左下の写真)は、バグダンザンの河底から発見されたものである。チャン・フン・ダオはこの杭を使って元の艦隊をどのように撃破したのか、考えてみよう。



河底から発見された杭

答え

チャン・フン・ダオは河底に無数の杭を打ち込み、満潮時に元の艦隊を河口に誘い込んで、引き潮を待って攻撃した。河底の杭で動きを奪われた元の艦隊は大混乱に陥り、多数の将兵が溺死し、ベトナムから撤退を余儀なくされた。



バグダンザンの戦い

国の侵略を撃退した人物として、13世紀のチャン・フン・ダオは有名である。当時中国を支配していた元は日本ばかりでなく、ベトナムにも1257、59、84~85、87~88年の4度、遠征を試みた。とくに1284~85年には30万人の大軍で押し寄せた。チャン・フン・ダオ(陳興道)を指揮官とするベトナム軍は、元の大軍をバグダンザン(白藤江)の河口で迎え撃ち、大勝した。

3) 植民地からの独立

ホアロー収容所・ホーチミン廟・ホーチミン生家
~植民地支配と抵抗の歴史~

・ベトナムの学校や公共施設には、必ずバック・ホー



中学校にあったホー胸像

(ホーおじさんの意味。ベトナム人はホーチミンを敬愛を込めてこう呼ぶ。)の写真や像が飾られている。ホーチミン(1890~1969年)は全生涯をフランス植民地支配、第二次大戦中の日本軍の侵略、第二次大戦後のフランス・アメリカの軍事干渉(インドシナ戦争・ベトナム戦争)に対する祖国ベトナム解放のために捧げた。そのため、ベトナム人はホーチミンを「民族の精華と気遣、時代の良心」と呼んでいる。

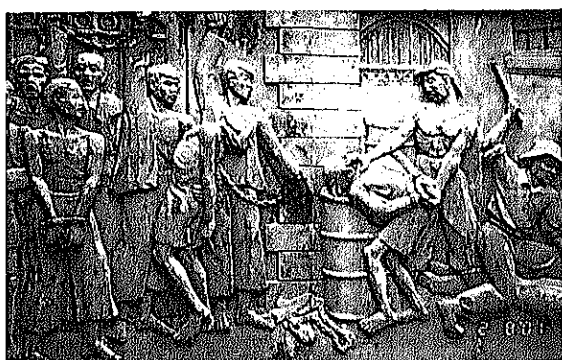
- ・フランスのベトナム植民地化は1858年から始まり、日本軍の占領(1940~45年)まで続いた。ベトナム民衆はフランスの植民地化と支配に対して激しい抵抗運動を行った。今日博物館として一般公開されているホアロー収容所は19世紀末にフランスによって建設された監獄で、当時の監房の様子や拷問器具が展示されていた。
- ・1945年9月2日、ホーチミンはハノイでベトナムの独立を宣言した(ベトナム民主共和国)。しかし、ベトナムは独立後もフランス(インドシナ戦争)、

ベトナムの近現代史

1858	仏がサイゴンを領有
1885	仏が保護国化
1887	仏領インドシナの成立
1930	ホー、共産党を結成
1940	日本軍が進駐を開始
1945	ホーが独立を宣言
1946~54	インドシナ戦争
1960~76	ベトナム戦争
1986	ドイモイ政策の開始



ホアアーン監獄の内部



拷問の様子を描いたレリーフ

続いてアメリカ（ベトナム戦争）からの軍事介入を経験した。アメリカは最大時55万人の地上軍を投入し、カリフォルニア州とほぼ同じ面積のベトナムに第二次大戦で使用した弾薬・爆弾のほぼ2倍にあたる1144万トンを使用した。しかし、ベトナム人を屈服させることはできず、撤退を余儀なくされた。

- ・1986年以来、ベトナムは社会主義政権のもとでドイモイ（刷新）と呼ばれる経済の開放政策を推進している。

問題 死後30年以上を経ても、ホーチミンがベトナムで敬愛されている理由は何だろうか、考えてみよう。

生徒の意見

生徒が出した主な意見を以下に列挙する。

- ・独裁者とならずにベトナム民衆と一緒に歩んだから。
- ・外国の侵略（フランス、日本、アメリカ）に対して絶対に屈しなかったから。
- ・一般民衆と同じような質素な生活を送ったから。
- ・温厚な人柄であり、優しい風貌だから。

第4時限 ベトナムと日本

(1) 本時の目標

- ・ベトナムでの青年海外協力隊員、NGOの活動及びODA事業の実態を学習させ、生徒に我が国の国際協力や国際貢献の意義について理解させる。

(2) 本時の展開

1) 江川うららさん（青年海外協力隊員）の活動

- ・ベトナムのゲアン省ティンチュオン郡病院に保健婦として派遣された江川うらら隊員の活動について、取り上げる。

教師の問い

「ゲアン省はどんな省であるのか、(表1)データから分析してみよう。」

生徒の分析

- ・農村人口が9割を占める農村地帯である。
- ・出生率が全国平均より高い。
- ・保健・医療スタッフが全国平均より少ない。

教師の問い

「私たちがゲアン省の人たちに対してどんな協力ができるか、考えてみよう。」

生徒の意見

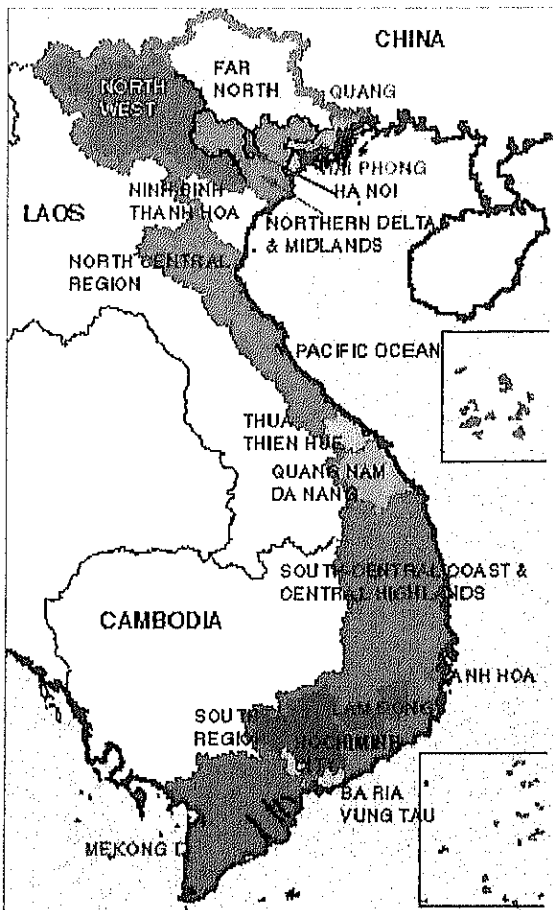
農村地帯のゲアン省は都市に比べて収入が少なく（貧困であり）、医師や医療スタッフが少ない。出生率や人口増加率が高いということは、日本としては出産や育児などに関する技術や知識の面で協力できる。

教師の説明

ゲアン省には日本から4人の青年海外協力隊員が派遣され、活動している。内訳は、助産婦3名・栄養士1名である。

- ・その中の一人、江川うららさんはティンチュオン郡病院に助産婦として働いている。私たちが訪問したとき（8月6日）に撮影した写真をもとに、江川さんの活動の様子を紹介する（写真①～③を参照）。

ベトナム地図



①ベトナム人スタッフと一緒に江川うららさん
(左から二人目)。



②タインチュオン郡病院

江川さんはこの病院に住み込み、ベトナム人助産婦への技術指導を行っている。また、ここを拠点にして、周辺の保健所を訪問し、地域衛生や保健所助産婦への再教育に従事している。

表1 ベトナムとケアン省の基礎データ

	ベトナム	ケアン省
人 口	76,327,900人 都市人口：23.5% 農村人口：76.5%	2,858,300人 都市人口：10.2% 農村人口：89.8%
出生率	19.9/1,000人	21.56/1,000人*
死亡率	5.6/1,000人	5.5/1,000人*
自然増加率	1.43%	1.61%*
面積	332,000km ²	16,442km ² (全国土の5%) 岩手県よりやや広い面積
行政区画	61省 (4直轄都市を含む) 597郡 10,331 コミューン (山岳地5,286)	1省 19郡 (1市、1町含む) 466 コミューン (山岳地225)
世帯あたり可耕地面積	0.5ha	0.27ha
GDP Per Capita (98年)	4,022,300VND (US\$267)	2,420,710VND (US\$173)
保健・医療スタッフ	人口403人あたり1人	人口426人あたり1人
CHC普及率	98%	92.5%
CHCに医師がいる割合	34%	14%
コミュニティの電化率	85.8%	87.4%
コミュニティの小学校普及率	98.7%	100%

General Statistical Office, *Statistical Year Book 1999*, Ministry of Health, *Health Statistic Year Book 1999*

* : ケアン省人口・家族計画委員会「1998年人口・家族計画活動実現状況報告」(ベトナム語)

(出典:「ヴェトナム・リプロダクティブ・ヘルスプロジェクト」JOICEP, 2001)



③日本から供与された医療器具

タイル敷きの分娩室に設置された分娩台と器具。決して新しいとはいえないが、大変丁寧に使用されている様子であった。ベトナムの人々は自分たちで器具のメンテナンスを行っているため、日本から供与された器具のほとんどが、破棄されることなく大切に使われている。

分娩台が窓側に向けて置かれているのは、停電時でも外光を利用してできるようにするための工夫である。

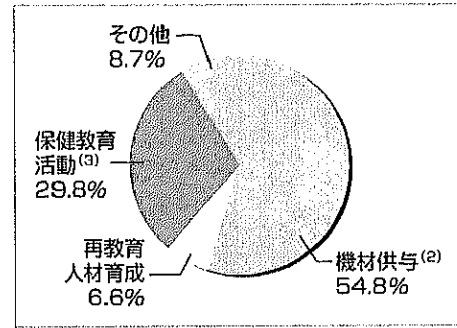
2) 「リプロダクティブ・ヘルス」って何?

ゲアン省では、江川うららさんの活動のほかに「リプロダクティブ・ヘルス」と呼ばれるプロジェクトも行われている。ここでは、JICAや家族計画協力事業団 (JOICEP: 日本のNGO) が進めている「リプロダクティブ・ヘルスプロジェクト」(以下、RHPと略記する。) について、講義形式で紹介する。

【リプロダクティブ・ヘルスプロジェクト (RHP) の活動】

- ・「リプロダクティブ・ヘルス」とは、「妊娠・出産のシステムおよびその機能とプロセスすべての事象において、単に病気がない或いは病的でないということではなく、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあること」(WHO、1992年) をいう。
- ・RHPは、農村の女性が安心して出産できる環境づくりを目指して、1997年6月から実施されている(第1フェーズ1997年~2000年、第2フェーズ2000年~継続中)。
- ・RHPの事業として、各コミュニティ(村)の保健センターの助産スタッフの再教育(フォローアップ)や医療器具等の供与(パッケージ援助)、地域住民への保健教育、ベトナム側カウンターパートの管理運営能力の強化などを行っている(表2を参照)。
- ・具体的活動状況として、ゲアン省内の244箇所のコミュニティ保健センターへのパッケージ援助や、助産婦258名に再教育(1コース1ヶ月、全11コース)

表2 RHP支援分野別支出



を実施した。また、日本人専門家のゲアン省派遣(のべ25名)、カウンターパートの日本研修(のべ9名)などを実施した(『ヴィエトナム・リプロダクティブ・ヘルスプロジェクト』から)。

【Save the Children Japan (SCJ) の活動】

次にゲアン省に隣接するティンホア省で活動している“Save the Children Japan”(NGO組織、以下、SCJと略記する。)の活動を紹介する。私たちは8月7日にティンホア省を訪ね、責任者の渡辺さんから活動の様子を伺った。

- ・SCJはティンホア省の45のコミュニティで活動している。この地域では乳児の約4割が栄養不良である。そのため乳児の発育不全に伴う知的障害が問題になっている。
- ・SCJのプロジェクトとして、以下の事業を実施している。

①乳幼児の健康診断

定期的に乳幼児の体重測定を行い、発育不良者を発見する。

②乳幼児の栄養改善

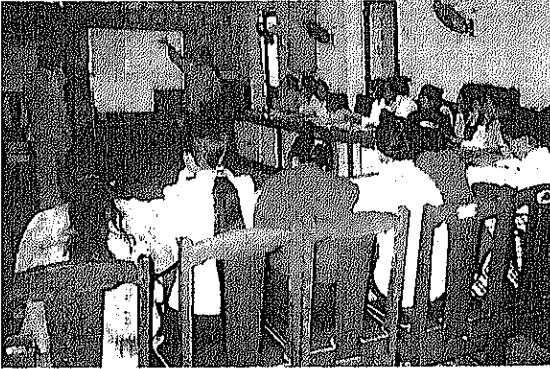
母親に対してタニシやエビなど地元で採取される栄養価の高い食物についての紹介や調理法の学習を行う。

③発育不良乳児に対する栄養指導

発育不良の乳児をもつ母親を集め、地元で採取できる材料を用いて一緒に調理し、乳幼児に食べさせるなどの栄養指導を行う。

④経済的困窮者に対する融資

経済的に困難な家庭に対しては、担保なしで一家庭30ドル(約3,600円)を融資し、生活環境の改善を助ける。



母親を集めての学習会の様子



乳児をもつ母親たちへの調理指導

- ・今後の活動としては、出産後6ヶ月～1年の間に栄養不良になるケースが多いので、乳児の離乳食についての指導を行ってゆく。

【「魚を与えることでなく魚を捕る方法を教える」援助が大切】

- ・渡辺さんの話を聞いて感じたことは、現地の人々に常に自助努力を求めていることである。JICAや日本のNGOのプロジェクトは、事業から撤退した後も現地の人々が自分たちでその事業を継続できることを目指してサポートしてゆくことを心がけているとのことである。

3) 国際協力現場から学んだこと

最後に、本単元のまとめとして、小レポート（資料2）を課し、次回の授業時に提出させた。

- ・提出された小レポートの要約を以下に紹介する。
- JICAやNGOによる援助の実態が分かって興味深かった。ほくは、新聞やテレビのニュースで報道され

【資料2】小レポートのテーマ

君は、ベトナムにおける我が国の援助や協力の様子からどんなことを感じましたか。意見を書いてください。

る日本の援助の様子についてあまりよい印象をもっていなかった。ばらまき援助で現地の人々には役に立っていないという感じだった。江川さんや「リプロダクティブ・ヘルスプロジェクト」を知り、地元に着している様子に感心した。

- 日本の援助が自助努力を原則とするということを知り、びっくりした。援助を行う側にとっても援助を受ける側にとっても大変なことだが、そうしないと現地の人たちの間に定着しないと思う。「魚を与えることでなく魚を捕る方法を教える」援助が大切という言葉が印象に残った。
- 青年海外協力隊員やNGOがベトナムの農村にとけ込んで活動している姿に感動した。その活動が長い時間をかけて作りあげてきた現地のベトナム人との信頼関係によるものであるということが分かった。

おわりに

発展途上国への援助を考える場合、ベトナムでお会いしたRHP調整員の岩柳信也さんの言葉は印象に残った。

「ある援助機関がゲアン省内のある1郡で妊婦の栄養と妊婦検診の受検回数をあげることを目的とし、妊婦検診ごとに米を配給しました。当然米が欲しいから検診に来る妊婦は増え妊婦検診回数は上がりました。当然といえば当然です。妊婦は検診の必要性を理解していたわけではなく、お米が欲しいから暑い中を村の保健所までやってきたのです。しかしながら報告書では援助期間中どれだけ妊婦検診の回数が増えたと言うことが成果として報告されます。」(岩柳信也氏作成による資料「ちょっと考えて、プロジェクトの現場から」)

岩柳さんは、上記の文章の中で、安易に目に見える成果（実績）を目指すのではなく、妊婦自身が検診の重

要性を理解することを目指す援助こそが大切ということを書いてある。私たちは、国際協力や援助活動について、その現場をあまりにも知らなすぎたように思われる。新聞やテレビでは、現地の人に役に立たない日本の援助という報道をとかく目にする。しかし、今回のベトナム現地研修では、訪問地の至るところで現地にとけ込み献身的に働いているJICA・青年海外協力隊員・NGOの方々の姿を発見した。ゲアン省タインチュオン郡のある村で出会った農民の方が私たちのグループを発見して、グォイニャット（日本人）ではなくジャイカ（JICA）と呼んでいたことが印象的であった。そこからは、地元に基づいて活動するJICAスタッフの姿が目に見えよう。

今回の国際協力・国際理解の教材開発にあたっては、ゲアン省で見聞したRHPの活動から学ぶべき点が多かった。開発した単元「ベトナムを通して『南北問題』

を考える』を通して、生徒が南北問題や我が国の国際協力のあり方について考えるきっかけになれば幸いである。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださったJICAとその関係者のみなさまに深く感謝いたします。

参考資料

- ・吉沢南『ハノイで考える』（東京大学出版会、1985）
- ・歴史教育者協議会編『知っておきたい東南アジア1』（青木書店、1994）
- ・古田元夫『ホー・チ・ミン』（岩波書店、1996）
- ・小倉貞男『物語ベトナムの歴史』（中公新書、1997）
- ・都高校国際教育研究協議会編『総合的学習 こう展開する国際理解教育』（清水書院、1999）
- ・『農村女性のリプロダクティブヘルス向上を目指して』（JOICEP、2001）など。





コミック本「ドラえもん」を 介しての国際協力

SATOSHI KOICHI

小市 聡

商業

横浜市立横浜商業高校

はじめに

学校では毎日多忙な業務と休日も含めての部活動。個人としては英語嫌い、海外旅行は新婚旅行のみ。国内で外国人を目の前にすれば国を問わず笑うしかない。家に帰ると小学生から0才児に至る3人の育児に追われる私が、突然ベトナムに行った。

このような国際素人の私が、何か生徒に実践をさせるなんて、以前には考えられないことであった。しかし今回の出発前には考えた。ベトナムの高校生と生徒同士のメール交換から交流して云々。この壮大な計画はベトナム2日目にしてあっけなく終わった。機材や言葉の関係から、現状では難しいことがわかった。あらためて自分が日本の常識でものを考えていたことに気づいた。

困った。他にアイデアはなかった。報告から逃避していた日々、子どもとテレビを見ていた。ドラえもんを見た。…困った時はドラえもん…ということで、ベトナムで買ってきたコミック本のドラえもんを使っての実践をすることにした。日本のアニメは海外でも複数発売されていた。内容も全く同じ。日本で発売されているものを買ってくれば、ベトナム語—日本語の立派な訳本になる。これにベトナム語の辞書と観光用会話集を加えた4冊で、日本の絵本をベトナム語に翻訳し、ベトナムに送るという企画をたてた。よい企画だと自画自賛した。とりあえず自分でやってみた。3時間かかった。できなかった。結果が見えない実践が始まった。

授業は通年で行っている商業科国際コース「総合実践」の中で実施した。総合実践は「私たち日本人および日本は世界に対して何ができるのだろうか」をテーマに外国人や関係機関から講師を招き学習している。今回は「国際協力」を1単元として対象をベトナムと位置づけた。

カリキュラム案

■実践の目的

- ・身近にできる国際協力の体験
- ・世界の様々な言語に対する受容的な態度の育成
- ・国際ビジネスにおける国際協力の必要性を学ぶ

授業の詳細

第1時限 ▶ ベトナムについての調査

ベトナムを8分野に分けてインターネットや文献で調べさせる。分野の内容は地理・歴史、民族・宗教、政治・経済、生活全般、教育、流行・時事、有名人、日本との関係。図書館の本による調査は情報としては古いものが多く、雑誌等にはあまり掲載されていなかった。インターネットによる検索は絞り込みに多少の苦労はあるものの最新の情報が有り、生徒の多くも利用していた。ベトナムの人々の一般的な生活や流行・時事について、また考え方の根底にある思想については理解しにくい様子であった。

授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
【例】1時限 テーマ：メキシコを知る ねらい：導入のためメキシコを知り興味を持たせること	(1) 白地図でメキシコ位置をあてさせる (2) フォトランゲージでメキシコの人々の生活を議論しあう	(1) 白地図 (2) メキシコで収集した写真、新聞、雑誌、通貨等
1～2時限 テーマ：日本のベトナムに対する国際協力 ねらい：ベトナムに対する知識の拡大と経済的背景をともなった日本の援助を理解する	1 (1) 国際協力についての講義 (2) ベトナムを対象国とした基本的な調査 2 各担当調査内容の報告と情報交換	(1) 世界地図 (2) インターネット、図書室 (3) JICA提供資料 (4) プロジェクター
3～5時限 テーマ：身近にできる国際協力の実践 ねらい：限られた材料を使っての作業を言語に対する違和感をうすめる	3～5 (1) 4人1グループによる絵本のベトナム語訳	(1) ベトナム語辞書 (2) 観光用会話集 (3) コミック本「ドラえもん」ベトナム版 (4) コミック本「ドラえもん」日本版
6時限 テーマ：作業を通しての国際協力の必要性 ねらい：国際ビジネスと国際協力の関係を理解と必要性を学ぶ	6 (1) 発送にあたっての話し合い (2) 国際ビジネスと国際協力についてのまとめ	

第2時限 情報交換

前回の8分野の情報交換。生徒がそれぞれ調査した分野の報告をすることで情報を共有する。加えて今回の研修の報告を写真、資料を添えて補足する。補足の内容は気候、都市と地方、学校、医療機関、産業・市場、日本の国際協力・経済援助など。生徒は社会主義という政治形態、ふたりっこ政策、孔子の思想、市民の生活に興味があった。その外に地方における医療の現状や識字率の高い国民であることも説明した。

第3～5時限 作業開始

ベトナム版と日本版のドラえもん、辞書、観光用会話集を加えた4冊で、日本の絵本をベトナム語に翻訳させる。生徒の話し合いで、ベトナム国民の高い識字率と地方の医療機関というキーワードから、絵本は医療に何らかの関わりがあるもの、病院で母親が子どもに読んであげられる設定で考えた。

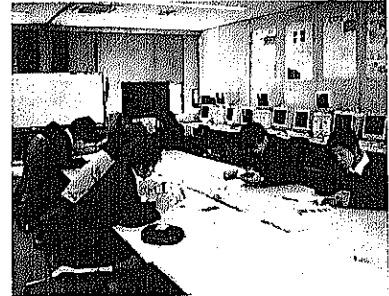
作業は4人一組で1冊を担当。ベトナム語はアルファベットを使っているもの見たことのない記号が



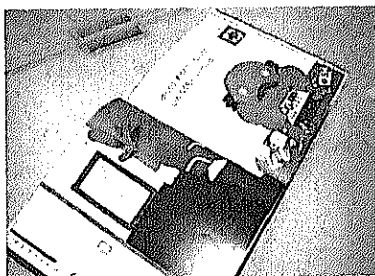
1. 授業風景①



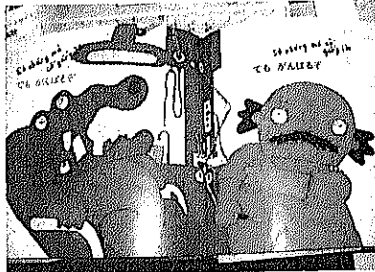
2. 授業風景②



3. 授業風景③



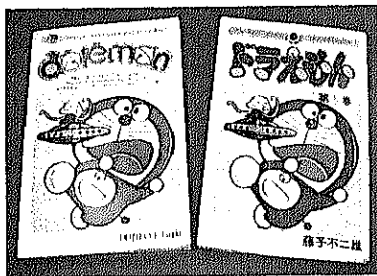
4. 日本の絵本



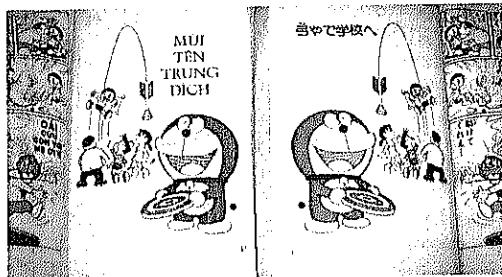
5. 完成版 (本文)



6. 完成版 (表紙)



7. 日本とベトナムのドラえもん (表紙)



8. 日本とベトナムのドラえもん (本文)

いていたり、発音が英語の感覚では読めないなど珍会話続出の大混乱。とりあえず、絵本の文章を頭に入れてから単語探しを主にはじめた。辞書があるので単語調べは比較的順調でそれほど問題はなかった。しかし、その単語を文法に当てはめる作業から難しくなる。旅行会話集や辞書にある基本的な文法とインターネットを頼りに進める。ドラえもん担当の生徒はストーリーにはまっていたり、やっと見つけた文章がベトナム版では省略されているなど苦労したが、会話を訳すという部分では役に立っていた。

内容が変わらない限りの文章変更を可とし、擬音、擬態語は英語感覚で表現させた。1ページ1行程度、全20ページの絵本を3時間で9割程度完成させた。時間的には3時間が適切だと思われる。それでも1割程度は訳せない文章もあった。

第6時限 確認・発送作業、まとめ

職員の紹介で学校の近隣にすむベトナムの方に確認の意味を込めて見ていただく。結果正解率75%。初回にしてはまずまずのできと評価した。送り先は、今回の研修で紹介されたベトナム中部の地方にある病院に決め、発送方法をガイドブックで調べた。後にメー

ルでの交信を続けるつもりである。

授業のまとめでは、商業高校で商業という科目を学ぶ生徒たちにとって、世界はビジネスの場であると同時に協力し合う場所でもあることを教え、今日の日本経済が両者を含めて成り立っていることを学習した。

生徒の感想

「ベトナム語は英語と文法が違い難しかった。アルファベットにみたことのない記号がついていて、そんな文字を見たことがなかったのでおもしろかった。また辞書を見ていたら言葉によって男女の言い方が違うものもあり驚いた。3時間で完成させるのは思っていたより難しく、最初は文の少ない絵本で文法さえわかればすぐにできるだろうと思っていたけれど予想外だった。だから完成した時は嬉しくて達成感があった。(中略) 今までは外国の人に話を聞くことで興味を持ったことがたくさんあったが、今回の作業は英語以外の国の言葉に興味を持つことができたので楽しかった。これからもこのようなことから国際的に貢献できる仕事をしてみたいと思った。」

おおかたの感想は上記のように大変だったけどよか

ったというものが9割で、残りはつらいとか拒否もあった。

おわりに

ドラえもんは、異なる言語を解決してくれるというよりは、未知の言語の世界に興味を持たせて連れていってくれる役割を果たしてくれた。それはもちろん言語から向こう側の文化にも道はつながっている。辞書だけでは堅苦しくなる授業に、違和感なく未知の言語に導き、具体的な行動を起こさせてくれた。ドラえもんのおかげで、生徒はベトナムに興味を持って取り組むことができた。

さて、東京の神田で今度はインドネシアのドラえもんに巡り合った。第2弾はインドネシアの子どもの施設に絵本を贈ることにした。作業はすでに終わった。あとはインドネシアの人に確認してもらい発送をするだけだ。正解率はいかに。ドラえもんは世界何カ国にいるのだろうか。藤子プロにメールで質問しても返事はなかった。海賊版が多いのかなとも考えた。そうならこれも世界の現実だと思った。生徒たちが将来国際協力を理解したビジネスマンとして世界で活躍することを祈り、今回の研修の報告としく思う。

写真の説明

- 写真1～6 実践の授業風景 2～3のグループに分かれて翻訳作業
写真7～8 ベトナムで購入したドラえもんのコミック本と日本の同コミック本
横書きと縦書きの違いから左右対称に作られている

参考資料

- 「ドラえもん」ベトナム版 現地購入6,500ドン (80円程度)
「ドラえもん」日本版 古本店購入200円 人気があるらしく複数店探した
「日本語－ベトナム語－英語辞典」国際語学社 3,800円 480ページ 高いが必要
「たびたび会話 ベトナム語」国際語学社 1,500円
「旅の指さし会話帳11 ベトナム」情報センター出版局 1,500円

訳した絵本

- 「わにさんどきつ はいしゃさんどきつ」偕成社 880円 25行程度の訳
「いただきます あそび」偕成者 700円 20行程度の訳

その他

授業の説明では現地で撮影した写真とビデオ、頂いた資料、購入したものも使用した。





異文化を知る音楽世界の旅

～音からの発見～

AKIKO IMAI
今井章子

音楽
岐阜県立東濃養護学校

カリキュラム案

■実践の目的

教科「音楽」としてヨルダンをどう取り上げるか、生徒が世界を意識することの難しさを感じていた。「生活の音から世界が見える」「音からヨルダン(中東アジア)が想像できる」という視点で実践できないだろうかと考え、現地で音を採り、これにその他の資料を加え、様々な音を中心に授業の構成を試みた。

教科に総合的な学習の要素を取り入れることによって、生徒たちの視野を広げ世界に目を向かせることを今回の授業の目的とし、以下の通り実践した。

①生徒の個性や特徴を伸ばし、興味関心を示す授業形態を選択する。

②本校の指導形態の特徴(T.T)を生かし、世界各地域に分けて①を生かす内容を組み立てる。今回のような授業形態は初めて実施。

私は中東アジア、アフリカ地域を担当し、「音」に着目した授業を計画した。

■授業の構成 (授業構成表参照)

「音楽世界の旅」～異文化を知る～

選択結果

(1、2グループは生徒の特性に合わせて教員が選出した。3、4グループの学習レベルは平均的である。)

1グループ: 楽器 (9名・教員S)

2グループ: ダンス (7名)

3グループ: 歌 (12名)

4グループ: 研究 (6名)

グループの特徴とねらい

(以下の1～4の数字はグループを表す)

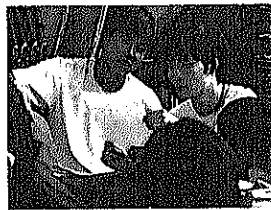
- 1: 楽器を中心に学習し、音を楽しむことができる。その他の学習では力が発揮しにくい。
- 2: ダンスを学習し、リズム感がよく、音楽を体中で楽しむことができる。(ダウン症4名)
- 3: 歌を中心に学習する。世界の音楽への興味をさらに広げたり、歌うことを楽しめる。
- 4: 研究と設定し、実技的なものではなく、他の視点で音楽を深めたい。

以下私の担当した中東アジアとアフリカについて記述

全グループについて世界のどの地域にあるのかを授業の初めに確認する。



事前学習1



事前学習2

授業の詳細

11・12・13限目について

(1) 実践方法

生活の中で身につけたこと、教科の中で学んだことを関連づけながら、総合的に考え、自分なりに考え、問題を解決するという総合的な学習を教科と絡めて、

授業構成表

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1～2時限 JICA研修員との交流の事前学習	(1) 国旗を作る (2) 訪問者を知る・校内の案内表示の英語を学習する (プリントを外国語担当者へ作成依頼)	(1) 世界地図 国旗付 国旗の絵本 (2) プリント
3時限 JICA研修員との交流 「国の違いを感じる」	(1) 7ヶ国の国歌を聴く 日本の国歌を歌う (2) 生徒による校内案内	(1) 電子ピアノ (2) 上記の国旗・プリント・世界地図
4時限 これからの授業のオリエンテーション	(1) 生徒の興味関心あるいは得意な学習形態を選択し、各地域(各教室)をグループで廻ることを説明 (2) グループわけ	

	時限	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	担当	9/27	10/16	10/18	10/22	10/30	11/8	11/15	11/22	11/27
中東アジア アフリカ	今井	1: 太鼓 タンバリン 楽器・リズム		2: 太鼓 ベリー・アフリカ ンダンス		3: ヨルダンとケニア の言葉と歌		4: 音から世界を知る 「音の旅に出かけよう」ヨルダンの生活の音		
東南アジア	N	2: インドネシア バリ舞踊		3: ボイスパーカッション		4: インド映画について		1: スリット竹・楽器		
ヨーロッパ	Y	3: ブラムスの子守歌		4: オペラと楽器の名前		1: 打楽器演奏		2: ワルツ		
アメリカ	K	4: アメリカ国旗のルーツ		1: 手作りマラカス		2: 英語曲バラバラ		4: アメリカ国歌		

その他教員TとS：1グループ担当

授業を試みた。

- ①生活の経験や想像力から学習できるもの→音(世界を生徒の位置から想像しにくいと思えたため)
- ②教科学習としてサウンドスケープ的なもの→音
- ③問題解決→クイズ形式
- ④興味関心→学習形態の選択

(2) 対象生徒

4グループ：研究(6名)

(3) 授業内容

音から世界を知る「音の旅に出かけよう」

～ヨルダンの生活の音～

- ①音声だけを聴いてクイズ形式に進めていく授業であることを説明する。(生徒はおそらくこのような形式の授業の経験がない)
- ②音声を中心にして編集したビデオを利用する。

プリントと画面と同じ問題を提示→1回目：音声だけ聴く(画面は黒)→どんな場面か想像して書く→2回目：画像も入れて再生する→答えを書く→(これを繰り返す)

- ③途中で関連のある教材を利用して、簡単な解説を加える。

例) Q5 現地のカセットテープ…ダビングされ販売されている。

Q2.2 現地の新聞の天気予報…天気のマークがないのはどうして？

(4) 生徒の反応

問題を作成するにあたって、連想しやすいところから始めた。

Q1：飛行機が飛び、イメージとして海外へ向けて飛び立つこと、修学旅行で飛行機に初めて乗った生徒も多いが、体験済みの音であるため想像し

ヨルダン



中東アジアとアフリカの授業構成表

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
5・6時限 1グループ 太鼓「中東とアフリカの音楽に触れる」 種類の違うタンバリン	(1) ケニアJICA研修員の歌紹介のビデオを見てアフリカをイメージする。 (2) 和太鼓を横にして、音楽に合わせてリズムをたたく。 (3) タンバリンの音の違いを感じる。 ヨルダン・アメリカ・日本	(以下資料3・4) (1) 交流ビデオ (2) ヨルダンで購入した打楽器のテープとタンバリン
7・8時限 2グループ リズムとダンス「中東とアフリカのリズムを体感する」	(1) 和太鼓を横にして踊りながらたたき、太鼓の周囲を回る。 (2) ヨルダンの障害者センターについてのダンスの様子をビデオで見せる。 (3) 音楽に合わせて踊る。	(1) アフリカ音楽CD レゲエCD (2) 現地ビデオ (3) ベリーダンスCD
9・10時限 3グループ 歌「ヨルダンとケニアの言葉と歌」	(1) スワヒリ語「JANBO JANBO」を歌う。 (2) 1拍ずつにステップの動きをつけて歌う。 (3) ヨルダン協力隊員の実践ビデオを見る。 (4) アラビア語「むすんでひらいて」 (5) アラビア語「あくしゅでこんにちは」動きながら歌う。	(1) インターネットから歌詞を引用 (2) アフリカCD (3) 現地ビデオ (4) (5) プリント
11・12・13時限 4グループ 音から世界を知る 「音の旅に出かけよう」	(1) 「音を聴いてどんなものが想像できるか考えてみよう」音声だけを聴いてクイズ形式で進めていく授業であることを説明する。1問ずつ解答していく。 (2) プリントに思いついたことを書く。 (3) 進行中関係のある教材の提示と説明 (4) 全体の感想・まとめ	(1) 音声中心編集ビデオ(資料1) (2) プリント(資料2) (3) 現地新聞・楽器・衣装 死海水・塩等(資料3) (4) (資料2)
14・15・16時限 17時限 11/28 12/4 12/6 12/11	(1) 今回の授業形式や内容についてのアンケート (2) 各地域ごとに学習したことを紹介する。簡単に授業の様子を、選択したグループごとに他の生徒へ紹介する。 中東アジア研究グループ:生徒が先生のかわりに出題 中東アジア・アフリカ→アジア→ヨーロッパ→アメリカ	(1) プリント (2) 各地域で使用したもの

やすいのではないかな。

Q2:せみという生徒が知っている音であること。

これらから進めて行ったため、授業のスタートとしては入りやすかったのではと思う。ただ音を聴いて、プリントに書くという作業のテンポに初め慣れない様子ではあったが、授業形態を理解するのに多くの時間はかからなかった。このグループの生徒は、イメージしたことを文字に書くことができるため、映像なしのときはじっと黙って想像し、音が止まると書き始める

ということがスムーズに進行した。

「あっわかった!」「○○○!」「いなよ!」「う〜わからん」という声を聞きながら、私自身もここで答えを聞きながらの方がよいのか、答えを書くまで待つてそれから少し意見を聞いてみる方がよいのか、そんなことを思いながら問題によって反応を見ながらの進行だった。上記のように進行途中で教材を提示して少しずつ反応を見たり、クイズ形式の流れを少し止めてみた。「脱線して、早く次の問題やってよ」といわ

れることもあったが…)

生活経験の少ない生徒と考えていたが、想像や連想が働き、音からのイメージを言ってもらうときは、生徒同志の連想ゲームのように広がっていき、十分な反応を得ることができた。

(5) 授業後の所感と全体のまとめ

聞いたことがある音というように、自分の経験から想像を膨らませないとわからない方法であるが、遠いヨルダン(中東)を身近なところから広げるために実施したこのクイズ形式は、生徒にはなんとなく自然に入っていくようである。目と耳から一度に入るのではなく、想像を膨らませ、勘を働かせて、自分の生活と結びつけていき、日本との比較が少しずつできてきたのかもしれない。

例えば、聞こえている音から、知らない楽器でも「ギターのようなもの」と想像でき、「ウード」という楽器が出てくる。実は自分の知っているものと同じようなものが、世界のどこかにあって親しまれていたり

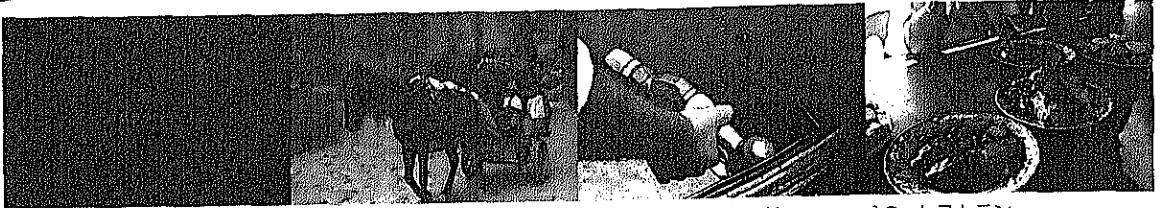
する。「水」も反応は早く、そこから砂漠のような国になぜ水の音? どんどころ? どうしてこんな音が聞こえてくるの? と広がりも生まれてきた。馴染みのないものを初めから目にして覚えるのではなく、画像のない音だけを通して身近な聞いたことのある音から、知らない外国が見えてきたことを望みたい。

学年として教科の「音楽」だけではなく「理科・社会」とも関連づけながら、「生活単元学習(学年校外学習)」「総合的な学習の時間(JICA研修員との交流・学校行事への学年の取り組み・世界地域の紹介と歌)」へと発展していくことができた。また今年度2月に行われる学習発表会でも、現在の世界の動向(アメリカ・アフガニスタン)、学習してきたダンス、それぞれの平和への想いを込めた創作劇に向けて進行中である。今回は音楽授業担当者の協力、学年の先生方の熱意があり、こうして授業も進められ、作り上げられてきている。

参考資料にプリントを利用して生徒の回答、生徒の声、教材の提示についてまとめたものを紹介する。

参考資料 資料1





16. アザーン3

17. 馬車

18. ガソリンスタンド

19. レストラン



20. テレビ歌番組

21. 車の中から

22. 車の中カセット2

23. パート3音楽・文化

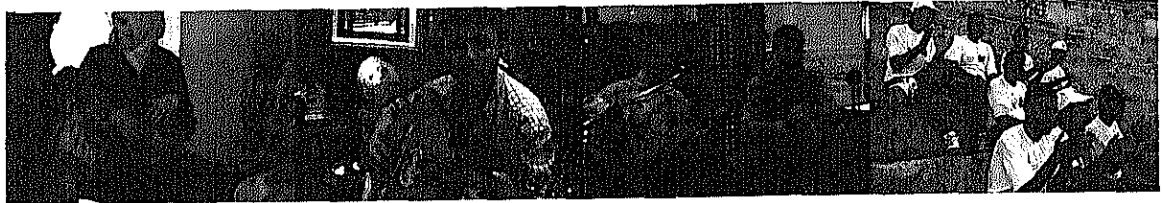


24. Q414

25. ローマン劇場

26. 笛

27. ラバーバ



28. タブルッカ

29. ウード

30. ウード・タブルッカ

31. ヨルダンの青年



32. 歌手

33. パート4景色

35. 牛景色2

36. 景色3



37. 浄水場景4

38. パート5その他

39. センターにて

40. 職業訓練センター



41. 障害者センター

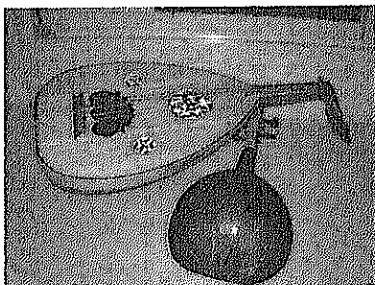
42. 乗道

43. 結婚パーティー

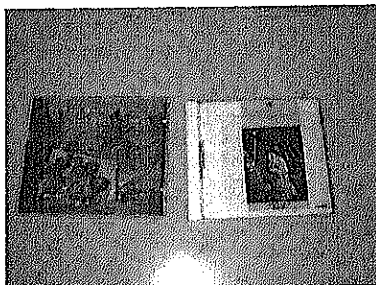
44. あとがき



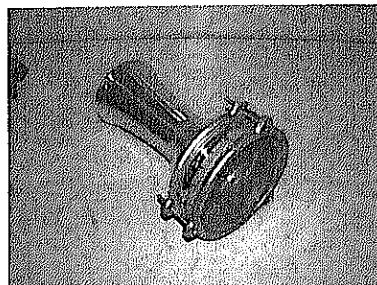
資料3



ウード (エジプト・ヨルダン)



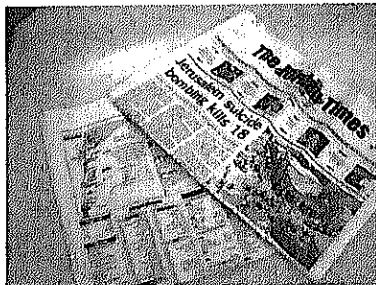
アフリカ・レゲエCD



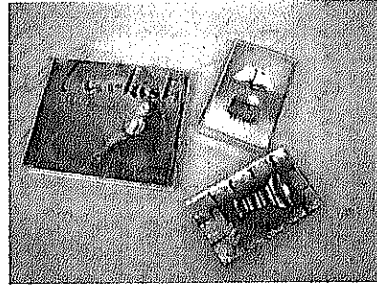
タブルッカ



男性衣装・ヨルダン (小笠原先生よりお借りしたもの)



ジョルダンタイムズ



CD・カセットテープ

資料4

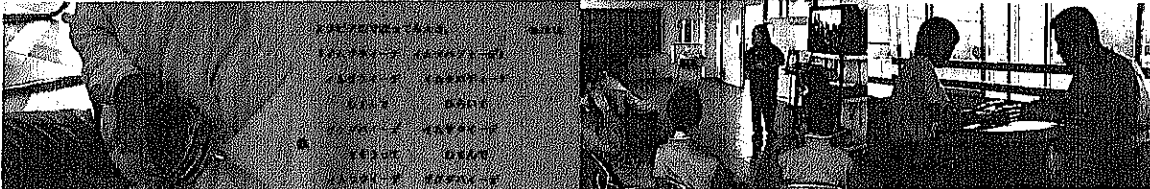


JICA交流2

JICA交流4

ダンス1

ダンス3



ダンス4タブルッカ

歌3

歌4

楽器2



研究2

研究6

研究8

研究9